

研究科 /Graduate School	文学研究科
課程 /Program	博士課程 前期課程
専攻・コース等 /Major, Course	人文学専攻 現代東アジア言語・文化専修
入試方式 /Admission Method	一般入学試験、外国人留学生入学試験 (RJ 方式)
試験科目 /Exam Subject	専門科目
実施年月日 (試験日) /Exam Date	2025 年 9 月 6 日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p><出題の意図></p> <p>本試験問題は、以下のふたつの目的を意図して出題している。第一に、受験生が自身の研究関心や問題意識を、論理的かつ適切な日本語で表現できているかを確認することである。これは、修士論文を執筆するうえで必要とされる日本語の運用能力を有しているかを測るためである。第二に、受験生が自身の研究分野に関する用語や概念を十分に理解しており、それらを適切な日本語で説明できるかどうかを確認することである。</p> <p>なお、出題に使用した用語は、受験生の願書および研究計画を参考にして選定した。</p> <p><採点時の観点></p> <p>本試験問題は、その出題形式の性質上、解答や解答例を公開することは適切ではないと判断し、代わりに採点時の観点を以下に示す。本試験問題は、以下の3点を基準として採点を行った。</p> <p>① 選択した5つの語句を用いて答案を作成しているか。また、選択した5つの語句について、その意味内容や学術的な意義を正しく理解しているか。</p> <p>② 答案において、研究上の課題が明確に述べられているか。その際、従前の研究などへの言及がなされているか。また、答案に対する適切なタイトルを付しているか。</p> <p>学術論文を執筆するのにふさわしい日本語運用能力を備えているか、すなわち、論理的に構成された文章になっているか。</p>	

研究科 /Graduate School	文学研究科
課程 /Program	博士課程 前期課程
専攻・コース等 /Major, Course	人文学専攻 現代東アジア言語・文化学専修
入試方式 /Admission Method	一般入学試験
試験科目 /Exam Subject	外国語科目（朝鮮語）
実施年月日（試験日） /Exam Date	2025年9月6日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question （試験問題自体を公開しない場合はその理由） (Reasons for not publishing exam questions)	
<p><解答例></p> <p>問1</p> <p>金史良は、中日戦争以降加速化した日本帝国主義の暴圧の中で朝鮮を脱出し、日本帝国の影響が及ばない中国地域への亡命に成功した唯一の作家だ。強占直後、申采浩が中国北京に亡命し、1920年代に趙明熙がロシアの沿海州に亡命したことはあるが、これは中日戦争の後のファシズム化された日本の状況での亡命とは多少違った。中日戦争後に李陸士が北京を通じて亡命しようとしたが、日本の占領下にあった北京で亡命に失敗し、むしろこの事で逮捕され、北京の刑務所で獄死した。そのため金史良は中日戦争以後亡命に成功した唯一の作家といえる。</p> <p>金史良の戯曲『胡蝶』は解放直後、南北の双方で脚光を浴びた。日帝末、多くの文学家たちが日本帝国主義に協力をしてきた反面、金史良は中国に亡命して抗日をしたため、大衆の集中的な照明を受けざるを得なかった。しかも、太行山で朝鮮人と中国人の抗日運動を扱った戯曲を創作したため、さらに注目を集めざるをえなかった。そのため、この作品は解放直後、南北ともに出版または公演された。</p> <p>北朝鮮ではいつどのように公演されたか、明らかにされたことはないが、出版されたものは残っている。解放1周年を迎え、1946年に戯曲集を発刊したが、そこに金史良の戯曲『胡蝶』が他の作家の作品とともに載っている。だが1年が過ぎた後の1947年に発刊された金史良の作品集『風上』には、この作品が掲載されていない。太行山で創作した他の2つの戯曲作品「ボットリの軍服」と「ドボンイとペベンイ」が掲載されたことに鑑みると、これには特別な事情があったようだ。</p> <p>問2</p> <p>阿部薫と町田長作は1920・30年代に植民地朝鮮で活動した日本人ジャーナリストだ。町田長作は1925年に『民衆時論』という月刊時事雑誌を京城で創刊し、社長および記者として活動し、阿部薫はこの雑誌社に記者として入社して多くの文章を書いた。『民衆時論』社は京城に支社兼編集局を置き、発行所と印刷所は広島に置いて、そこで印刷して小包郵便で朝鮮に入るといった雑誌だった。この雑誌は朝鮮総督府の様々な政策に対して概ね批判的な態度を取ったため、何度も輸入が禁止されていたようだ。それは阿部がこの雑誌に載せた文をまとめて本を出すとき、多くの部分が削除されたことから、ある程度推測できる。</p> <p>阿部薫は1919年朝鮮に渡り、1924年から朝鮮の様々な雑誌に文章を書き始めた。彼は『民衆時論』に入社した後は主にこの雑誌に多くの文章を書いた。町田長作は1881年に日本の新潟県で生まれ、1908年に朝鮮に渡った。1925年2月時事雑誌『民衆時論』を創刊して社長を務めた。彼も1920年代には『民衆時論』誌に相当な量の文章を書いたものと見られるが、現在は一部が残っているだけだ。</p> <p><出題の意図></p> <p>本専修では、朝鮮・韓国に関わる修士論文の準備・執筆にあたり、韓国などで出された原語の関連研究論文を数多く収集・読解する能力が求められます。また朝鮮・韓国に関する基礎知識も合わせて確認するため、一般的に知られている人名、事件、事項なども盛り</p>	

込んだ論文の日本語訳を出題しました。完全な翻訳ではなくても、全体の文脈や意図を理解していれば、合格ラインとしています。

研究科 /Graduate School	文学研究科
課程 /Program	博士課程 前期課程
専攻・コース等 /Major, Course	人文学専攻 現代東アジア言語・文化学専修
入試方式 /Admission Method	一般入学試験、外国人留学生入学試験 (RJ 方式)
試験科目 /Exam Subject	専門科目
実施年月日 (試験日) /Exam Date	2026 年 2 月 8 日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p><出題の意図></p> <p>本試験問題は、以下のふたつの目的を意図して出題している。第一に、受験生が自身の研究関心や問題意識を、論理的かつ適切な日本語で表現できているかを確認することである。これは、修士論文を執筆するうえで必要とされる日本語の運用能力を有しているかを測るためである。第二に、受験生が自身の研究分野に関する用語や概念を十分に理解しており、それらを適切な日本語で説明できるかどうかを確認することである。</p> <p>なお、出題に使用した用語は、受験生の願書および研究計画を参考にして選定した。</p> <p><採点時の観点></p> <p>本試験問題は、その出題形式の性質上、解答や解答例を公開することは適切ではないと判断し、代わりに採点時の観点を以下に示す。本試験問題は、以下の3点を基準として採点を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 選択した5つの語句を用いて答案を作成しているか (選択肢は第一種と第二種に分けて出題しており、第一種から最低1つは選ぶという条件を付した)。また、選択した5つの語句について、その意味内容や学術的な意義を正しく理解しているか。 ② 答案において、研究上の課題が明確に述べられているか。その際、従前の研究などへの言及がなされているか。また、答案に対する適切なタイトルを付しているか。 ③ 学術論文を執筆するのにふさわしい日本語運用能力を備えているか、すなわち、論理的に構成された文章になっているか。 	